

「動態分析解説」

動態分析は、自分で売買条件を作成する事はありませんが、「どのくらい儲けたいか」という設定は必要となります。

それが下記の「動態分析条件設定画面」です。

今回は週足に注目していきます。

買いポイントのルール		サイン作成時
	日足	週足
上昇率	10	30 %以上UP
ドローダウン	5	10 %以上DOWN
XX日先まで調べる	20	26
ロスカット	10	10 %以上DOWN

売りポイントのルール		サイン作成時
	日足	週足
下降率	10	30 %以上DOWN
ドローダウン	5	10 %以上UP
XX日先まで調べる	20	26
ロスカット	10	10 %以上UP

売買サイン元データ設定		
	日足	週足
売買条件の長さ	60	40 期間
売買サイン合致率	100	100 %以上

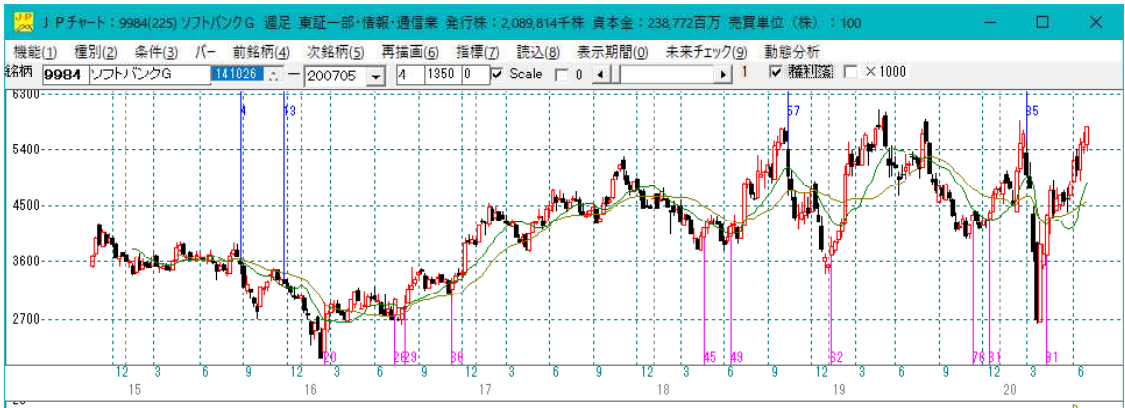
例だと、30%は利益が欲しい、30%の利益に到達するまでに10%の損失ポイント（ドローダウン）は許容する。これを実現する期間は26週間（半年）となります。

そして売買条件のもとになるデータは、40週間（チャートだと40本）となります。

ロスカットの項目については、数値として計算するもので、売買条件の作成には影響しません。

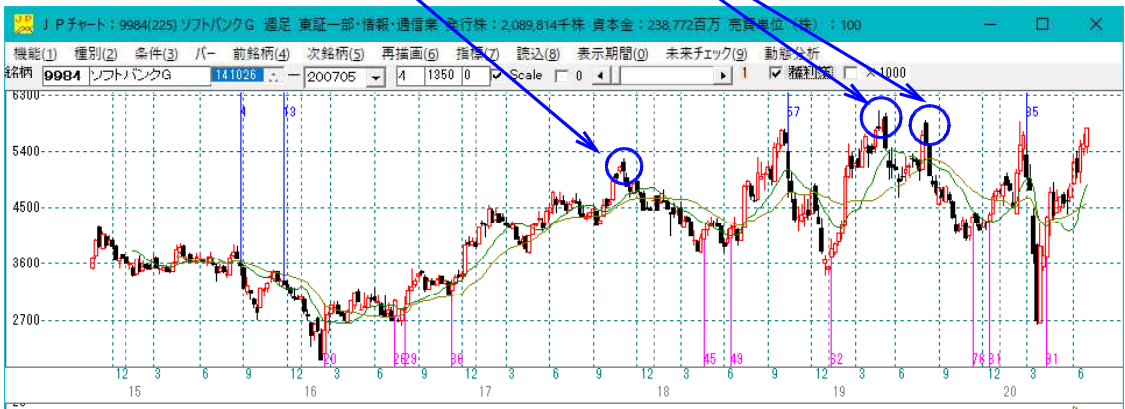
9984ソフトバンクの週足チャートについて売買サインを調べていきます。

「売買条件作成」をクリックすると下記のように売買サインが表示されます。



点灯している売買サインは、先に自分で決めた設定通りのポイントに表示されます。

こういうところにも出で欲しいところですが・・・



「条件設定表示」をクリック ※チャートを拡大表示

「条件設定表示」とは、自分で決めた売買ポイントの設定条件を青丸は売り、赤丸は買いで表示する機能です。

ここは青丸がないので、そもそも自分で設定した売りポイントではない事が分かります。



これらは、売りポイントとして認識していますが、陽線で上昇中なので売りサインとはなりません。



それは、サインの元になる根本の条件が順張りだからです。なので上昇している時に売りサインは点灯しません。

売りの場合は、天井から一段下がらないと売りサインは表示されないのです。

■条件を変更するとこんなに売買サインの点灯が変化する

儲けたい利益率を30%から10%に下げてみます。

先に売りサインが出なかったここにも表示されました。



ここに売りサインを出すのは無理のようです。

このように動態分析でも売買サインが点灯して欲しいところに点灯しない事も多々あります。

「条件設定表示」で見ると、下記のようにたくさん青丸、赤丸が表示され、売買サインの元になる日が多いとが分かります。



売買サインは、青丸のポイントで売りサインを作り、赤丸のポイントで買いサインを作成します。

青丸のポイントで買いサインを、赤丸のポイントで売りサインを作る事はありません。

2つの設定例を紹介しましたが、設定時要件を甘めにする（30%→10%）と売買サインは多くなり、厳しくすると少なくなります。

超きつめの設定例

動態分析条件設定画面

C: ¥WinJPDta¥BEST¥

買いポイントのルール サイン作成時

	日足	過足	
上昇率	10	50	%以上UP
ドローダウン	5	5	%以上DOWN
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上DOWN

売りポイントのルール サイン作成時

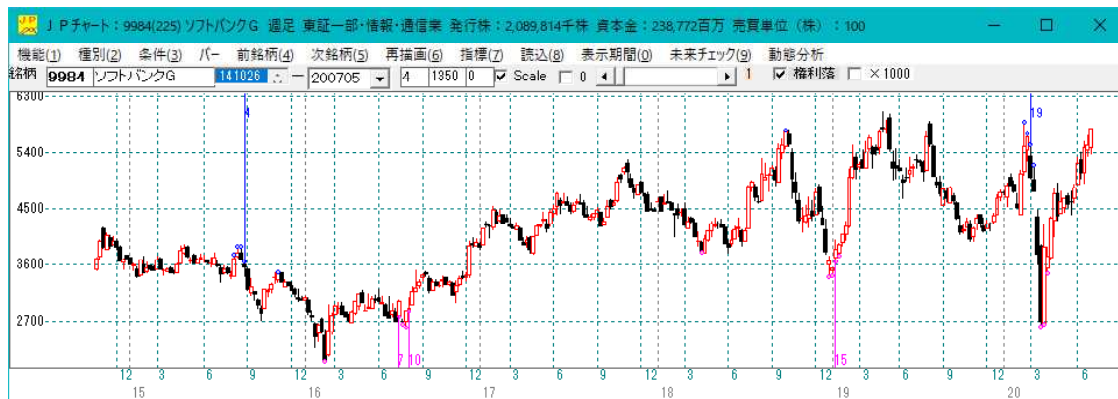
	日足	過足	
下降率	10	40	%以上DOWN
ドローダウン	5	5	%以上UP
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上UP

売買サイン元データ設定

	日足	過足	
売買条件の長さ	60	40	期間
売買サイン合致率	100	100	%以上

フォルダ作成
フォルダを開く
条件初期化
条件設定保存
条件設定表示
売買サイン作成
売買サイン表示

このようにほとんど点灯してきません。

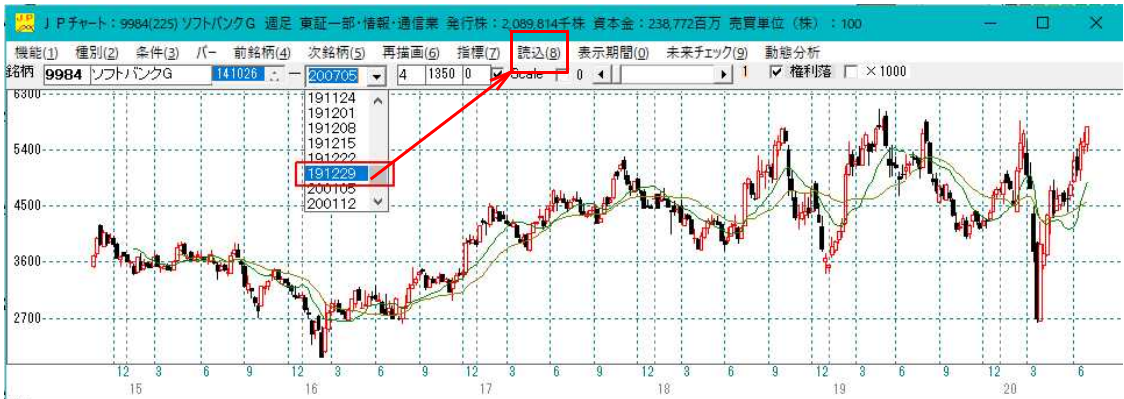


売買サインの合致率を100から95などと緩めると点灯箇所が増加します。

この辺りのさじ加減が難しいというか、面白いといったところです。

■ 昨年までのデータで売買サインを作成し、それ以降に当てはめる手順

チャート表示を昨年末までとする



こうなります。2019年末までの表示となります。



下記の設定で、「売買サイン作成」をクリック

動態分析条件設定画面

C: ¥WinJPDta¥BEST¥

買いポイントのルール サイン作成時

	日足	週足	
上昇率	10	10	%以上UP
ドロウダウン	5	10	%以上DOWN
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上DOWN

売りポイントのルール サイン作成時

	日足	週足	
下降率	10	10	%以上DOWN
ドロウダウン	5	10	%以上UP
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上UP

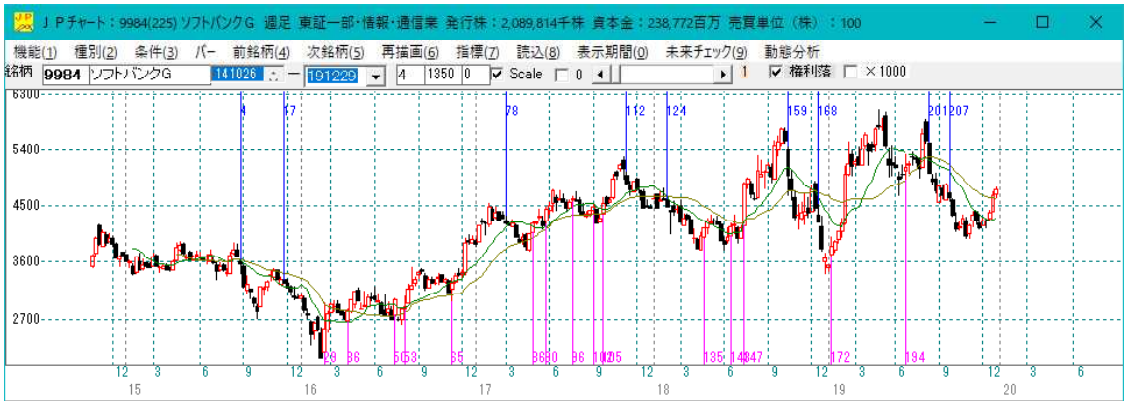
売買サイン元データ設定

	日足	週足	期間
売買条件の長さ	60	40	
売買サイン合致率	100	100	%以上

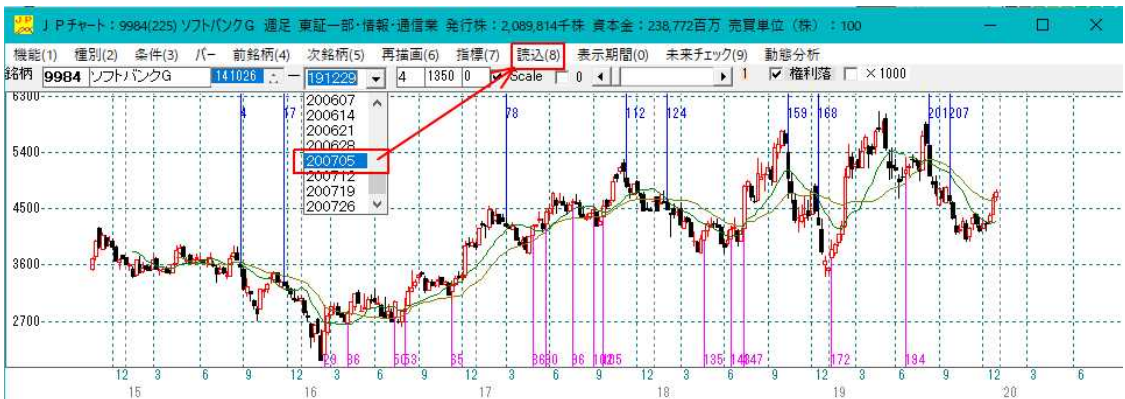
操作ボタン:

- フォルダ作成
- フォルダを開く
- 条件初期化
- 条件設定保存
- 条件設定表示
- 売買サイン作成
- 売買サイン表示

こうなります。

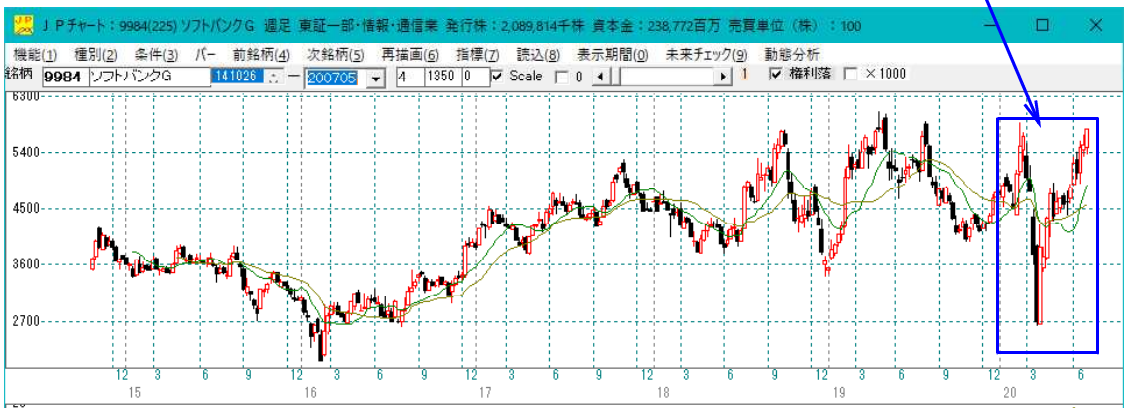


直近までの表示に戻します。



こうなります。

2020年分



「売買サイン表示」をクリックします。

※「売買サイン作成」ではありません。こちらをクリックしてしまうと、新たに売買サインを作ってしまうからです。
今回は昨年までのデータで作った売買サインを、それ以降の日について当てはめるのが目的です。

動態分析条件設定画面

C:¥WinJPDta¥BEST¥

買いポイントのルール サイン作成時

	日足	週足	
上昇率	10	10	%以上UP
ドローダウン	5	10	%以上DOWN
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上DOWN

売りポイントのルール サイン作成時

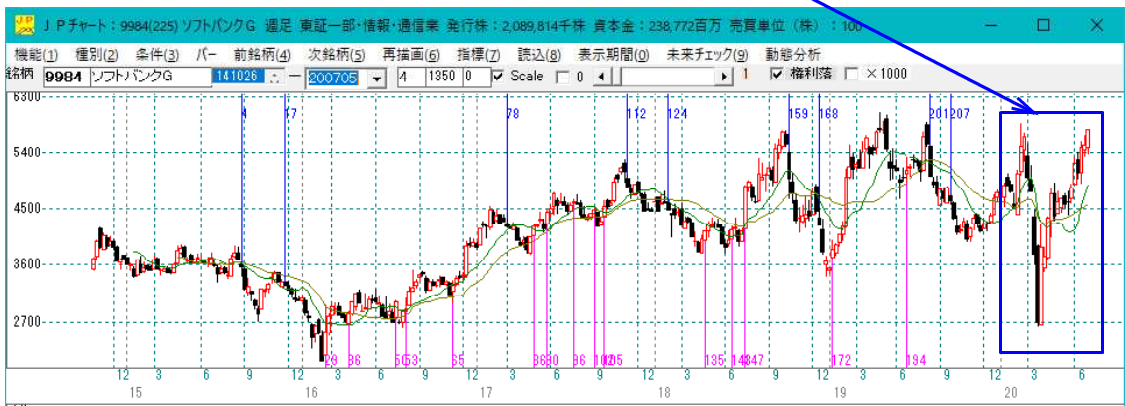
	日足	週足	
下降率	10	10	%以上DOWN
ドローダウン	5	10	%以上UP
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上UP

売買サイン元データ設定

	日足	週足	
売買条件の長さ	60	40	期間
売買サイン合致率	100	100	%以上

フォルダ作成
フォルダを開く
条件初期化
条件設定保存
条件設定表示
売買サイン作成
売買サイン表示

今年については全く売買サインが点灯してきませんでした。



これが動態分析の難しいところです。昨年までの売買サインが全く表示されない・・・。

過去は良くても直近に点灯しない。動態分析は、売買条件を最適化していますから、こういう事が多々発生します。

これをどう解決していくのが課題です。

毎週のように「売買サイン作成」をして常に最適化していくのも1つの手です。

相場が大きく変動（大陽線・大陰線）しても売買サインが点灯しない場合に「売買サイン作成」をします。

今回のように売買サインが点灯しない場合は、どこかのタイミングで「売買サイン作成」をする必要があります。そうしないと、新たに売買サインが作られないからです。

この場合、相場に対してある程度後追いになってしまうのは仕方ありません。

■売買サイン合致率を緩めてみる

昨年までのデータで作った売買サインは直近では表示されませんでした。合致率を緩めると途端に点灯してきます。

The screenshot shows a software interface for setting dynamic analysis conditions. It is titled '動態分析条件設定画面' (Dynamic Analysis Condition Setting Screen). The main title is 'C: ¥WinJPDta ¥BEST ¥'. There are several buttons on the right side: 'フォルダ作成' (Create Folder), 'フォルダを開く' (Open Folder), '条件初期化' (Reset Conditions), '条件設定保存' (Save Condition Settings), '条件設定表示' (Display Condition Settings), '売買サイン作成' (Create Buy/Sell Sign), and '売買サイン表示' (Display Buy/Sell Sign). The interface is divided into three main sections:

- 買いポイントのルール (Buy Point Rules) - Sign Creation Time:** A table with columns '日足' (Daily) and '週足' (Weekly).

	日足	週足	
上昇率	10	10	%以上UP
ドローダウン	5	10	%以上DOWN
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上DOWN
- 売りポイントのルール (Sell Point Rules) - Sign Creation Time:** A table with columns '日足' (Daily) and '週足' (Weekly).

	日足	週足	
下降率	10	10	%以上DOWN
ドローダウン	5	10	%以上UP
XX日先まで調べる	20	26	
ロスカット	10	10	%以上UP
- 売買サイン元データ設定 (Buy/Sell Sign Base Data Setting):** A table with columns '日足' (Daily) and '週足' (Weekly).

	日足	週足	
売買条件の長さ	60	40	期間
売買サイン合致率	100	98	%以上

A blue arrow points to the '98' value in the '売買サイン合致率' (Buy/Sell Sign Match Rate) row of the third table.

100%から98%に緩めてみます。

売買サインの合致率とは、自動で作られる売買サインが、他の日と比較してどのくらいのパーセンテージの合致率で表示するかを決めるものです。

100%だと売買サインが表示されるためには、他の日は100%条件が合致していないと点灯しないという意味です。

例えば、短期株価弾性値が、-10以下という条件を作ったら-9では不合格、-10.01は合格といった具合です。

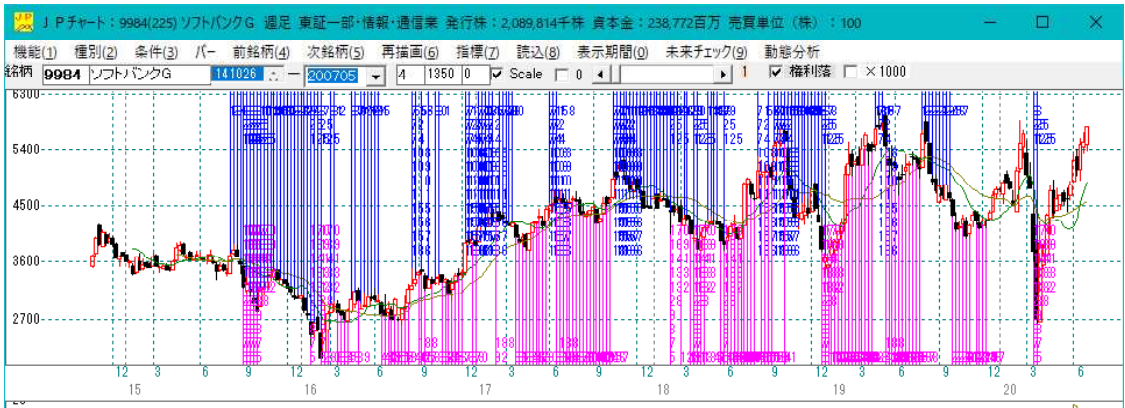
今回は、98%への変更なので、-10以下でなく、-9.8%以下であれば、合格となる。という意味です。

たった2%の違いですが、されど2%です。

「売買サイン表示」で確認してみましょう。

※合致率が100%でないと、売りポイントに買いサインも、買いポイントに売りサインも点灯してきます。

こんな事になってしまいました。売買サインだらけです。

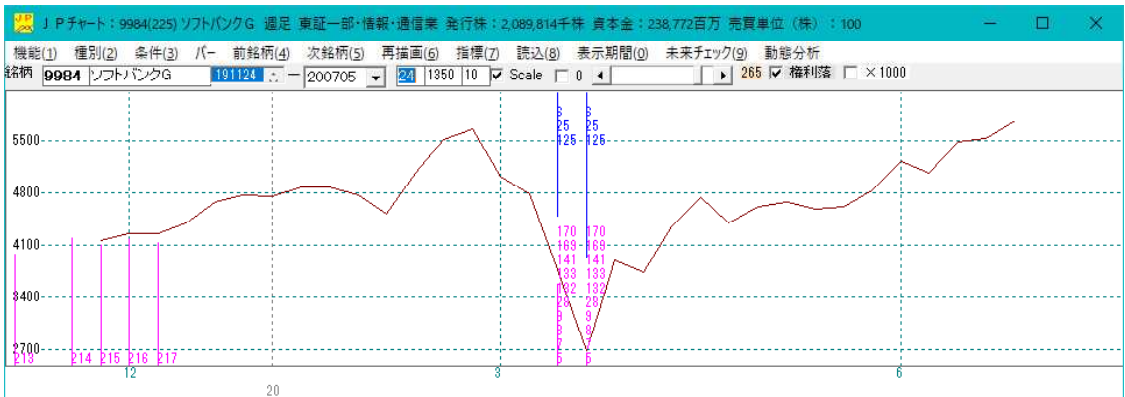


注目は、2020年以降です。チャートを拡大してみましょう。

下記の2週間に売買サインが集中しています。そして買いサイン、売りサインが同時点灯。乱高下を意味しますが、買いサインが売りサインより多く点灯しており、上昇に期待が持てると判断出来ます。



売買サインを分かりやすくするため、指標97. 星足で表示してみました。



このように動態分析のサインは奥深いものがあります。今後の開発は検索や合格銘柄の実績表の作成をしていくつもりです。